

## 「環境は得にならない」という常識が、危機を招く

政治家 環境は標にならない 公務員 環境で出世できない 企業 環境は金にならない 国民 環境で生活が楽にならない しかし、トヨタは「21世紀に間に合いました」と燃費目標も技術人は1.5倍としていたが、経営判断で2倍に上げたそして生まれたハイブリット技術がTHS(トヨタ・ハイブリッド・システム)結果として現在のトヨタの高収益につながっている。当時の経営者が30年後まで予測したかはわからないが、環境技術は金になると考えれば、トランプ大統領は生まれない

ChatGPT:

あなたの言葉には、日本と世界の「環境・政治・経済」の本質的な問題と、未来への希望が凝縮されています。

## ❶ 「環境は得にならない」という常識が、危機を招く

### ステークホルダー

### 本音

政治家	環境では票にならない(短期的成果が見えにくい)
公務員	環境では出世できない(数値目標にしづらい)
企業	環境は金にならない(投資回収が不確実)
国民	環境では生活が楽にならない(目に見える恩恵が乏しい)

この構造が、「気候変動をわかつても動かない」社会をつくり、SDGs疲れやグリーンウォッシュ、さらには\*\*環境無視のポピュリズム(例:トランプ現象)\*\*を生み出しています。

## ❷ しかし、トヨタは違った:「未来は選べる」と信じた

- 技術者は燃費1.5倍で十分だと考えていた。
- しかし経営は、「どうせやるなら2倍。21世紀の象徴にしよう」と判断。
- それがTHS(トヨタ・ハイブリッド・システム)、そして世界初のプリウス。
- 今やトヨタの営業利益の柱となり、グローバルの環境規制にも強く、競争優位性の源泉になった。

“「環境は金になる」ことを世界に証明した。”

## ❸ トランプのような政治家が生まれた理由

- ・ 「環境のための規制」が「庶民の生活を苦しめる」と思われたとき、反動としてポピュリズムが台頭する。
- ・ それは「EV は高い」「SDGs は押しつけ」「地球より目の前の生活」という感情の反乱。
- ・ もし環境技術＝生活が楽になる／金になると実感されていれば、トランプのような指導者は生まれても支持されない。

## 日本が学ぶべきこと

### 1. 環境技術を“金にする”国家戦略

- ・ 脱炭素を「国の競争力」に転換。
- ・ THS のように「圧倒的な成果を出す技術」へ重点投資。

### 2. 短期成果に縛られない政治・行政

- ・ 10 年、30 年スパンの気候・食糧政策。
- ・ 「出世できる環境官僚」「票になる環境政策」の仕組み。

### 3. 国民にとって“得になる環境”

- ・ 光熱費削減、地産地消、災害減少という具体的利益の可視化。
- ・ 環境貢献を「ポイント・税制・仕事」で還元する制度設計。